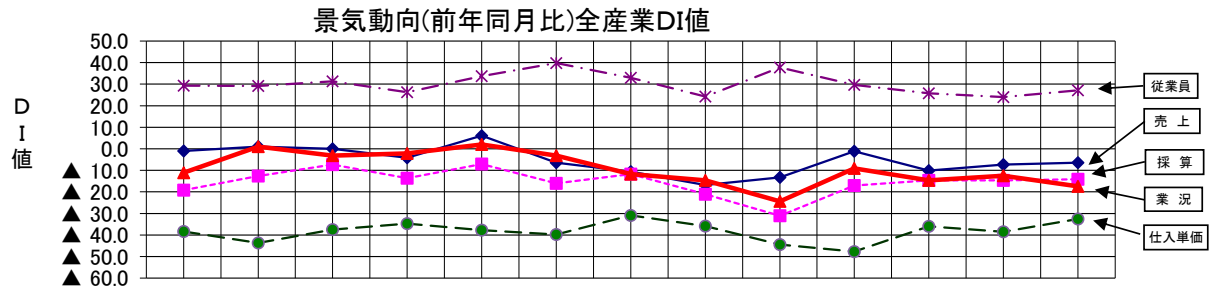


早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 7月分

【7月の概要】業況回復の動きは弱く、先行きの不透明感が増す

6月の業況判断に比べると、売上D I、採算D I、仕入単価D Iはマイナス幅が改善したが、業況D Iはマイナス幅が増加しており、従業員D Iのプラス幅は増加した。人材不足による人件費増加や、物流費などのコスト増が続いている。

先行き見通しについては、6月に比べ売上D Iはマイナス幅が増加し、採算D Iはプラス幅が増加したが、業況D I、仕入単価D Iはマイナス幅が増加、従業員D Iはプラス幅が増加した。売上の減少、原材料の高騰や経費増などにより先行きの不透明感が増している。



【全産業平均DI】※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

	2018年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	2019年7月
◆ 売上	▲ 1.0	1.0	0.0	▲ 4.2	6.1	▲ 6.5	▲ 10.6	▲ 16.8	▲ 13.3	▲ 1.1	▲ 10.1	▲ 7.3	▲ 6.5
□ 採算	▲ 19.2	▲ 12.6	▲ 7.3	▲ 13.7	▲ 7.1	▲ 16.1	▲ 11.7	▲ 21.1	▲ 31.1	▲ 17.1	▲ 14.6	▲ 14.6	▲ 14.1
▲ 業況	▲ 11.1	1.0	▲ 3.1	▲ 2.1	2.0	▲ 3.2	▲ 11.7	▲ 14.7	▲ 24.4	▲ 9.1	▲ 14.6	▲ 12.5	▲ 17.4
● 仕入単価	▲ 38.4	▲ 43.7	▲ 37.5	▲ 34.7	▲ 37.8	▲ 39.8	▲ 30.9	▲ 35.8	▲ 44.4	▲ 47.7	▲ 36.0	▲ 38.5	▲ 32.6
* 従業員	29.3	29.1	31.3	26.3	33.7	39.8	33.0	24.2	37.8	29.6	25.8	24.0	27.2

売上D Iは▲6.5（前月比▲0.8ポイント）、採算D Iは0.5ポイント、仕入単価D Iは5.9ポイント、プラス幅が増加した。業況D Iは▲17.4（前月比▲4.9ポイント）となり、従業員D Iは3.2ポイントプラス幅が増加した。

全産業平均D I - 向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
5月	1.1	▲ 5.6	▲ 9.0	▲ 41.6	33.7
6月	▲ 3.1	▲ 10.4	▲ 8.3	▲ 35.4	27.1
7月	▲ 4.4	▲ 8.7	▲ 12.0	▲ 39.1	29.4

先行き見通しでは、売上D Iは1.3ポイントのマイナス、採算D Iは1.7ポイントマイナス幅が改善、業況D Iは3.7ポイント、仕入単価D Iは3.7ポイント、それぞれマイナス幅が増加した。従業員D Iは2.3ポイントプラス幅が増加した。

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	住宅建設	職人不足から外注費が増加しており、仕入についても上昇傾向にある。
	土木工事	公共工事の受注が増加している。
製造業	食 品	原材料、人件費、物流費等の高騰により、製品の値上げを行う。
	金 属	景況の先行き不透明感が強く、受注に影響が出ている。
卸売業	機械部品	仕入価格上昇が止まらないうえに、消費増税による影響がどの様に出るか不透明である。
	食 品	働き方改革に対応し従業員を増やしたが、人件費増となり収益を圧迫している。
小売業	生 花	仕入値は昨年並みだが、天候不順の影響が非常に強く、今後、上昇が予想される。
サービス業	飲 食	売上減少に伴い、採算の改善が厳しい。
	ソフトウェア	改元・消費税増税対応に関連する受注が多かったが、慢性的な人員不足で業務調整に苦慮している。
	運 輸	荷動きの悪化と人件費や外注費の増加により、厳しい経営環境が続いている。